

# 資料1…「覚」

(高田町年寄森家文書…公文書センター所蔵)

おぼえ

覚

一 斗枱寸法  
とますすんぼう

1斗Ⅱ約18 L

うちのり

いちしやく

内矩 枵尺五分六厘三毛四方  
ぶ りん もうしほう

深サ 五寸八分式厘三毛  
すん に

弦 げん 巾 はば 五分式厘  
厚 式分八厘

一 枵升枱寸法  
しょう

1升Ⅱ約1.8 L

内矩 四寸九分四方

深サ 式寸七分

弦 巾 ちゆう 三分  
厚 枵分五厘  
長 六寸九分式厘余

右之通御座候 以上  
いぎやうせう

文化十二亥年十月  
ぶんか いのしし

右者、御関合と御聞合ニ付書上候  
は

この高田枱の寸法は、江戸枱と同じです。これは、一六八一年に高田藩主・松平光長が改易され、高田が幕府領となった際に、高田枱座が江戸枱と同じ寸法にすることを受け入れて以来のことです。しかし、高田枱座の存続は妥協せず守り抜きました。

覚

一 一斗枱の寸法

内側 約32センチ四方

深さ 約18センチ

弦 巾 約16ミリ

厚 約8.5ミリ

一 一升枱の寸法

内側 約15センチ四方

深さ 約8.2センチ

弦 巾 約9ミリ

厚 約4.5ミリ

長 約21センチ

右のとおりです。

一八一五年十月

右は関係するところから問合せがあったので書き上げたものである。